

1 2011年12月7日、ビリニユス（リトアニア）で開催された第18回OSCE外相理事会の機会に第2回「GUAM+日本」外相級会合が開催された。GUAM側代表者はメメディアロフ・アゼルバイジャン外相、ヴァシャツゼ・グルジア外相、レアンカ・モルドバ副首相兼外務欧州統合相（GUAM議長国）、ジョフテンコ駐リトアニア・ウクライナ大使及びチェチェラシヴィリGUAM事務局長であり、日本側代表者は飯村豊政府代表である。

2 両者は今後の政治対話の強化に関する意見交換を行い、共通の関心事項であるエネルギーや運輸・輸送、貿易・投資、防災や観光といった議題の他、国連安保理決議に基づく平和的な紛争の解決に関して議論を行った。また、両者はGUAM加盟国各国の経済社会発展計画に基づく、日本との中期的協力計画策定の議論を開始することで合意した。

3 両者はGUAM設立以降実施されてきた活発で成果のある対話を評価するとともに、協力のための共同プロジェクト・プログラムを実施する一方で、実務的な成果を達成するための着実なアプローチをさらに発展させていく必要があることを強調した。

4 両者は特に観光分野での協力の成果を更に発展させることを決定した。GUAMは日本のカスピ海・黒海沿岸地域への関心を高める目的で、日本の報道関係者をGUAM加盟国に招待する準備があることを強調した。また、両者は投資・貿易振興分野や防災分野における緊密な協力についても歓迎した。

5 日本側は2012年1月15～23日に東京においてGUAM加盟国を対象としたエネルギー安全保障ワークショップを開催する用意があることを改めて表明した。両者は協力してワークショップの準備に当たることによって合意し、代替エネルギーとLNG輸送技術分野においてGUAM加盟国間及び「GUAM+日本」の枠組みにおいて協力を密にするための地ならしを行うこととした。GUAMは東京におけるワークショップの結果を発展させ、当該地域でエネルギー協力を促進する意図を表明し、カスピ海・黒海沿岸地域のエネルギー協力への日本の協力を歓迎した。

6 両者は日本とGUAMが様々なレベルにおいて活発で成果のある対話を行っていることを歓迎した。両者はOSCE外相理事会の機会に従来行われている「GUAM+日本」会合やGUAM加盟国のナショナル・コーディネーター及びGUAM事務局長の訪日を評価した。両者は次回「GUAM+日本」の高級実務者級会合を来年前半の適切な時期及び場所において実施することで合意した。また、両者は東京において継続的に実施されている日本外務省の代表とGUAM加盟国の在京大使との間の意見交換を歓迎した。

7 両者はGUAMと日本との定期的な政治的対話及び分野別の協力を強化していくことで合意し、次回「GUAM+日本」会合を外交ルートを通じて調整していくこととした。